

自分のことを知る大切さに気づく

卒業生

国際基督教大学教養学部1年
ウッドハムズ小津 仁花 さん

幼稚園と中高を北陸学院で過ごす。中学はテニス部、高校は演劇部に励んだほか、「青少年読書感想文全国コンクール」で入選するなど、さまざまな経験を積んだ。



高校で、本格的にのめり込みました！

演劇で身についた力

中学生の時から、ミッションは「生徒に余裕と自由を与えてくれる学校」だと感じていました。学校生活を楽しみながら新たなことに挑戦し、自分を見つけたいと考え、高校もミッションに進学。中学の行事「演劇コンクール」に打ち込んだ経験から、演劇部に入りました。演劇を通して、人前に出る力、さまざまな状況への対応力、そして、難しいことも楽しむ力が身についたと思います。

今に生きていること

大学に進学した今、演劇部で培った力は授業や学生団体でのプレゼンに生かされています。また、キリスト教の精神を学んだことは、特に海外の文化に触れる場でとても役立っています。留学も視野に入れ、まだ触れたことのない世界に飛び込みながら、豊かに成長していけるよう努力したいです。

進路とじっくり向き合う

大学は「人生で何が自分を豊かにしてくれるのかを探す場所」だと思い、入学後に専門分野を選択できる国際基督教大学を目指すことに。先生方に悩みを相談し、多くの選択肢と資料を提示していただいて、自分にとってのベストが何か、真剣に考えました。



先生方に、たくさん助けてもらいました。

宗教への理解が、自分の視野を広げました。



「自分」を問う時間

進学する時、あるいは就職する時。推薦用紙や面接で「あなたはどんな人ですか？」と聞かれると、「明るい性格です」「責任感があります」と答える人が多いと思います。ただ、ある時自分にその質問をする時がきます。ミッションでよく聞く「賜物」や「使命」という言葉は大きな印象を受けますが、要は、今までの人生で知った自分のことを問われているのではないかと感じます。自分自身について考える時間を割り、目標や自分を持っている人は、強く、豊かな人生を送れると思います。私にとってミッションで自分と向き合った時間は、一生の宝物です。